

# 石崎嘉兵衛（いしざきかへい）（1/2）

～曳山の創始者と伝えられる～

「唐津くんち」に曳かれている14台の豪華な曳山は、いまや国内ばかりでなく、海外でもよく知られるほど有名になりました。大きく美しい漆ぬりの曳山は、江戸時代も半ば過ぎ刀町の「赤獅子」が作られたのが唐津曳山のはじまりといわれています。

刀町の石崎嘉兵衛が伊勢参りの帰りに京都の祇園山鉾を見て「赤獅子」を作ることにしたと伝えられています。このころ石崎家一族は、菊屋の屋号をもち材木町、呉服町、刀町に住み活躍しました。

商人で、特に刀町では中の菊屋、西の菊屋と呼ばれた大きな酒屋だったといわれています。その中の菊屋の嘉兵衛長則が「赤獅子」の作者といわれていましたが、この嘉兵衛は「赤獅子」が完成した文政2年（1819年）の2年後に生まれています。

そこで「赤獅子」の作者「石崎嘉兵衛」は、文化12年（1815年）に西寺町の浄土寺に木彫の仁王像を作った人ではないかといわれています。その木彫の仁王像の裏に「刀町住石崎嘉兵衛清堅」という作者名が記されていたからです。この嘉兵衛が「赤獅子」の内部に細工人石崎嘉兵衛と漆で書かれている人ではないかと考えられるようになりました。

しかし、この嘉兵衛も「赤獅子」が完成する2年前に亡くなっていました。曳山は原型を粘土で作る、それに和紙を何枚も張り重ね、次に型を抜いて、その上に漆をくり返し塗り、最後に金箔、銀箔をぬり「一閑張」という方法で仕上げられました。それには三年の月日がかかるとされていたので、最初に粘土で原型を作り始めた嘉兵衛清堅は、その途中で亡くなり完成を見ることはできなかったのでしょう。そこで、刀町の人々はその作者として大木小助とともに「赤獅子」の中に、その名を記し残したものと考えられます。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



赤獅子  
(唐津神祭行列図より)

「刀町」  
赤獅子



嘉兵衛の名が記された赤獅子の内部



浄土寺の仁王像

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 石崎嘉兵衛（いしざきかへい）（2/2）

～曳山の創始者と伝えられる～

～1/2からつづく～

この美しく大きな曳山が作られる前は、傘鉾の「かつぎ山」や車をつけた台の上に赤鳥居、左大臣、右大臣の人形、天狗面など造物をのせ町中を走った「走り山」がありました。また京町はその台の上で踊りを見せて廻ったので「踊り山」と呼ばれました。これらの山は曳山より小さく簡単なものでした。豪華で大きな最初の曳山「赤獅子」が作られた前年には、和多田の大土井で百姓一揆が起き、さらに40年ほど前には唐津領約2万5千人の百姓の一揆があり、また唐津藩主にもお金を貸す商人も出てきて武士中心の社会が崩れはじめた時代に10台の曳山は作られました。

こうして農民、商人の力が強くなり、特に唐津の商人の力で一千両以上もの費用をかけた曳山が次々に作られていきました。この2日間の祭で1日目は曳山が神輿を警護し同行する神事ですが、2日目には町人たちだけの楽しい祭りです。

嘉兵衛の最初の曳山「赤獅子」は、京都の祇園祭を見て作ったと伝えられています。しかしその構造は車の台上に京都は四本柱のやぐらで作られているのに対し唐津の曳山は台の中心に一本柱があり、これを心棒として「一閑張」の漆ぬり細工を支えています。明らかに構造は違っていました。この一本柱の曳山は江戸の町の「天下祭り」といわれる山王祭りに曳かれた「台引山」と同じつくりでした。また、文化、文政の時代には、この江戸の「台引山」の全盛でした。大江戸の天下まつりで、一度に五十台近くも曳かれた「台引山」は、今は一台も残されていませんが、獅子頭、浦島太郎、鯛などの造山は、唐津と同じ一本柱のものも作られていました。

こうして、この時代は江戸を中心に全国に町人文化が広まり、最も盛んになりました。石崎嘉兵衛から始まった唐津の美しく豪華な曳山は、代表的な町人文化のひとつで、その歴史を知ることのできる大切な日本の文化遺産です。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



唐津くんちの様子



唐津くんちの様子

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)